様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０４９１

研究課題名（和文）日本語の格システムの類型的変化と統語コーパス構築に向けての基礎研究

研究課題名（英文）Typological change of alignment in Japanese: Basic research with the objective of building syntactic corpora

研究代表者
柳田　優子（YANAGIDA, Yuko）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：２０２４３８１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：上代日本語の主語表示、目的語表示に関しては多くの研究がなされてきた。しかし、上代日本語には多くの項は無表示で表れる。本研究では格助詞で表示される項と表示されない項の統語的、意味的特徴を調査し、上代日本語が類型的に示差的項表示と呼ばれる現象が存在することを示した。示差的項表示は３つのレベルに分けられる１）項構造、２）文法、３）PF(形態的スペルアウト)。特に本研究はオックスフォード大学で現在開発されている文法タグ付きコーパスを使用して、目的語に「ヲ」で表示される目的語と無表示の目的語に関して詳細な調査を行い、目的語表示される項は「特定性」、表示されない項は「非特定性」を示すと結論づけた。

研究成果の概要（英文）：Within the past few decades, various proposals have been made about marking of arguments in Old Japanese (OJ) , but there is still few study about the exact circumstances determining when arguments are bare or case marked in OJ. This study examine in detail the distribution of bare and case marked arguments in OJ texts and show that OJ had ‘differential argument marking (DAM)’ associated with the three grammatical levels, 1) argument structure, 2) Syntax 3) PF (morphological spell-out) In particular, This study uses the material in the Oxford Corpus of Old Japanese to examine case marked object and bare object, showing that a specific/non-specific distinction plays a major role in the case marking of objects. Thus, in OJ, accusative case marked objects are specific, but bare objects are non-specific.

研究分野：言語学

キーワード：格配列　示差的項表示　特定性

１．研究開始当初の背景

Lightfoot(1989)以降、アメリカやヨーロッパを中心に、生成文法理論に基づく個別言語の史的研究が盛んに行われ、言語変化のメカニズムが明らかになりつつある。また Penn-Helsinki コーパスなどの大規模統語コーパスが理論研究に大きく貢献している。Penn-Helsinki コーパスは文法標識をつけた世界初のコーパスであり、タグ付けは生成文法理論を前提にしている。一方、我が国では、日本語史の理論研究はほとんど行われていない。さらに、こうした理論研究に不可欠な統語コーパスも存在していない。日本語は世界に類を見ない膨大な記述資料が存在するにも関わらず、日本語史の理論研究は国際的に立ち後れているのが現状である。

２．研究の目的

本研究は２つの研究課題から構成される。1)生成文法理論に基づく日本語の格システムの変化に関する実証研究を行う。2)通時・統語コーパス構築に向けた基礎研究を行う。

(１) 言語は類型的に対格型、能格型、活格型の大きく３つに分類される。言語類型論では、こういった分類を Alignment と呼び、言語の文法・形態体系のもっとも基礎的な性質と考えられてる(Harris and Campbell 1995)。研究代表者は日本語が活格型から対格型へと歴史的に変化したという仮説(柳田 2007, Yanagida and Whitman 2009, Yanagida 2012)を提案し、その歴史変化を生成文法理論の枠組みで研究を進めてきた。４カ年の研究では、主に上代日本語の詳細な資料調査を行い、能格型・活格型に代表される「示差的項表示(DAM)の意味的特性と統語構造に関する実証研究を行う。

(２) こうした研究には大規模な統語コーパスが不可欠である。英語史の分野ではペンシルベニア大学 Anthony Kroch 氏らによって世界で始めて文法タグを付加した統語コーパスが考案され、英語史の理論研究を飛躍的に発展させた。本研究では、オックスフォード大学 Bjarke Frellesvig 氏が統括する古代日本語の国際的なプロジェクトとの共同研究で、上代資料(約８世紀)の和歌と、『続日本紀宣命』、『延喜式祝詞』などの散文資料の電子化と文法タグ付きコーパスの作成を行う。

３．研究の方法

(1) 格システムと統語関係に関する研究：上代資料の和歌と散文資料の『続日本紀宣命』、『延喜式祝詞』を詳細に分析し、示差的項表示(DAM)を類型的、理論的視点から詳細に調査する。DAM とは、格表示される名詞句と格表示されない無表示の名詞句との間に「特定性」「有生性」などの意味的差異をもつ現象である。また類型的にこの２つのタイプの名詞句は統語的にも異なる位置に現れる。格助詞で表示される項は動詞句の外へ移動し、格助詞で表示されない項は元位置に現れる。上代日本語にこうした類型的一般化に関する現象があることをコーパスを使用して調査する。

(2) 統語コーパスの作成：オックスフォード大学 Bjarke Frellesvig 氏ら研究グループとの共同研究により、上代日本語の散文資料の助詞付き名詞句と無助詞の名詞句の主語・目的語の文法タグ付けを行う。さらに、本研究では『続日本紀宣命』、『延喜式祝詞』の電子化とコーパス化を行う。文法タグ付けには文を意味的にまた統語的にどのように解釈するか様々な考え方があり、生成文法を前提にした文法タグの付いたコーパスによる、上代日本語の語順や主語・目的語の分布など検証可能な客観的データを収集する。

４．研究成果

(1) 示差的項表示と統語構造に関する研究：散文資料を DAM の観点から調査した結果、祝詞は DAM において上代和歌と同様の振舞いをするが、宣命は DAM 反例が多い。小谷(1986)は祝詞と宣命の違いを以下のように述べている。「祝詞の文章は、口承伝統を受けたものでその文字化は和歌の場合と同様にそのまま和文として読み上げられたものであり、宣命は文章の骨格を漢文に依存し、漢文を土台に成立したものである」(1986:125)。DAM 仮説は、小谷の宣命体資料の違いを裏付ける結果になった。今後、日本語の歴史研究において、上代日本語の格体系に漢文がどのように影響し、上代以降の DAM の消失へと変化したかを調査する必要がある。

(2) 文法標識付き通時コーパスの作成：我が国では日本語史は国語学の領域であり、日本語の枠内での伝統的な記述文法が主流である。しかし、日本語特有の変化として記述された多くの事実を類型学的な比較方法論を用いて再分析を試みると、言語変化の一般性・普遍性と関わる現象が多く存在することがわかる。今後、日本における歴史資料を国語学領域だけでなく、言語学分

野の研究領域とするためには、客観的・定量的データから仮説を検証するための大規模な統語情報を付加した通時コーパスの構築が不可欠であり、その基礎研究を行う学術的意義は大きい。本研究では、オックスフォード大学の研究グループとの共同作業により上代日本語の和歌・祝詞・宣命の散文資料を電子化し文法タグ付けを行った。

上代日本語の歴史資料を DAM の観点から捉え直すと、いままで定説のない読みに新たな知見を与える可能性がある。たとえば、万葉集に「よき人のよしとよく見て…よき人よく見よ(MYS 27)」という和歌がある。前者の「よき人」と後者の「よき人」が誰を指すかは今のところ定説がない。格表示される項が特定性を示すという DAM 仮説に従えば、前者の「よき人」は特定の先賢(＝天武天皇)、後者は不特定の「よき人」を指すと解釈される。文法標識付き通時コーパスの構築は、こうした文解釈に関する新たな知見を与える可能性があり、一般言語学に果たす役割のみならず、文学、歴史研究に果たす役割も大きい。

さらに、本研究ではコーパス化された宣命体資料をつかって上代散文資料の言語的特徴を調査した。宣命も祝詞も「宣命体」と呼ばれる文体で書かれた上代の日本語である。しかし、どちらの資料も、文法資料としては国語学の分野ではほとんど調査されてない。特に宣命体で書かれた上代の散文資料は、格助詞や動詞活用など、多くは宣命体で表記されているが、表記されないで音読の際に読み添えられたと考えられるものも多くある。宣命の研究は、江戸時代後期の本居宣長(1803)の注釈書が一番古いものであるが、本居を含めて、国語学の分野でこの読み添えの基準について説明した研究は存在しない。記述文法では、この読み添えられる格助詞や活用などの機能語を再建することは極めてむずかしい。DAM 仮説を前提に上代日本語を再建すると、宣命体散文資料の間にも大きな違いが存在し、それぞれの散文資料の文章の起源に関する新しい知見が得られる可能性がある。また、宣命資料の読みの通説とは、異なる新しい解釈が与えられる可能性がある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２　件）

1) Whitman, John & Yuko Yanagida, A Korean grammatical borrowing in Early Middle Japanese *kunten* texts and its relation to the syntactic alignment of earlier Korean and Japanese, Japanese/Korean Linguistics 21, 121-135 (2015) 査読有

2) 柳田優子「言語類型論からみた上代日本語の主語表示・目的語表示」『日本語学』33, 124-137 (2014)　査読無

〔学会発表〕（計　8　件）

1) Frellesvig, B., S. Horn & Yuko Yanagida, Differential Object Marking in Old Japanese: A Corpus Based Study, European Association for Japanese Studies (EAJS), University of Ljublijana, Ljubljana, Slovenia 2014-8-28

2) Yanagida, Yuko, Differential Argument Marking and Word Order in Old Japanese. The Diachronic Typology of Differential Argument Marking, University of Konstanz, Konstanz, Germany 2014-04-06

3) Frellesvig, B., S. Horn & Yuko Yanagida, Differential Object Marking in Old Japanese: A Corpus Based Study, The Diachronic Typology of Differential Argument Marking, University of Konstanz, Konstanz, Germany, 2014-04-06

4) Whitman, J., K. Russell & Yuko Yanagida, Was Old Japanese a polysynthetic language? International Symposium on Polysynthesis in the World's Languages, National Institute for Japanese Language and Linguistics, Tachikawa, Tokyo, 2014-02-21

5) Frellesvig B., S. Horn & Yuko Yanagida, Differential Object Marking in Old Japanese: A Corpus Based Study, International Conference on Historical Linguistics, University of Oslo, Oslo, Norway, 2013-08-05

6) 柳田優子,格と統語変化，第 85 回日本英文学会，東北大（宮城県仙台市)2013-05-26

7) Whitman, J., & Yuko Yanagida, A Korean Grammatical Borrowing in Early Middle Japanese Kunten texts and its Relation to the Syntactic Alignment of Earlier Japanese and Korean, The 21th Japanese/Korean Linguistics, Seoul National University, Seoul, Korea, 2011-10-22

8) Yanagida, Yuko, Genitive Subjects and Nominalization, The 20th International Conference on Historical Linguistics,

National Museum of Ethnology, Suita, Osaka, 2011-07−28

〔図書〕（計　3　件）

1) Frellesvig, Bjarke, Horn Stephen, & Yuko Yanagida. Differential Object Marking in Old Japanese: A Corpus Based Study. Historical Linguistics: Current Issues in Linguistic Theory, ed by Dag Haug. （印刷中）(2015) 査読有

2) Yanagida, Yuko, The syntactic reconstruction of alignment and word order: The case of Old Japanese, In Historical Linguistics: Current Issues in Linguistic Theory. ed. by van Kemenade Ans, and Nynke de Haas. pp. 107-127. (2012) 査読有

3) Whitman, John & Yuko Yanagida, The Formal Syntax of Alignment Change, In Parameter Theory and Linguistic Change,by Galves, Charlotte,et.al. Oxford University Press pp.177-195（2012）査読有

６．研究組織

(1)研究代表者

柳田　優子（YANAGIDA YUKO）
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：20243818